



読者から昭和30・40年代の写真192点応募!! 東京新聞えがおプロジェクト『笑和写真館』

昨年から東京本社編集局が中心となって推進している「えがおプロジェクト」を全社で取り組んでいければ、という新春広告研修会での意見がスタートでした。コロナ禍で暗い記事が多い紙面に、昭和の懐かしいほっこり笑うことができる写真を募集して掲載してみてもどうかというアイデアを採用したのが『笑和写真館』です。

編集局に取材協力を依頼。記者が元・棋士の加藤一二三さんを取材。キックオフ紙面特集を6月に掲載しました。特集内で昭和30～40年代の写真を読者から募集。紙面とWEBで告知し、最終的に192点の応募があり、その中から20点を選定しました。特集下広告は救心製薬5段カラー、古賀政男音楽文化振興財団5段カラーで決定し昭和感の漂う懐かしい紙面となりました。最近ではAX（アナログトランスフォーメーション）という言葉も出てきています。急速に進むDXに対応しなければ取り残されてしまうでしょうが、今回のような新聞らしい企画も改めて重要と実感しました。

(東京本社広告一部)

2021年8月31日 東京新聞朝刊 30段

キックオフ紙面 2021年6月30日 東京新聞朝刊



17 2021年8月31日(水) 18



読者から昭和30年～40年代の写真を募集!

応募総数 192点!

Advertisement for Koga Masao Music Museum (古賀政男音楽博物館) featuring various musical performances and exhibitions.

Advertisement for Jishi (救心) medicine, featuring a woman's illustration and text about its benefits for heat and stress.

【読者の声】

- ・とても懐かしく楽しく読ませて頂きました。是非とも続編を。(男性50代)
・懐かしく各写真を眺めた。「笑和」と名付けたのは良いアイデアだと感じた。センスあります。(男性60代)
・昔の日本を写真で見ることが好きで、父母や祖父母の若い頃的情景を見ているようで嬉しいです。(女性30代)
・ハガキにしたいくなるような良い写真ばかりで、ホッコリした。(女性40代)